

様式2 令和5年度 清瀬市立 清瀬第五中 学校 学校評価表	
<b>学校教育目標</b> ・和敬 明るく思いやりのある人 ・思索 深く静かに考える人 ・剛健 たくましく、がまん強い人	<b>育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動</b> ○育成を目指す資質・能力 ・主として学びに向かう力、人間性等の涵養 ・主として思考力、判断力、表現力等の育成 ・主として心身の健康、豊かなスポーツライフの育成 ○特色ある教育活動 ・体験的な学習に力を入れ、「社会や世界に向き合い関わり合い自分の人生を切り開いていく力」を育成する ・食育やキャリア教育の視点から農業体験学習を中心とした学習を実施し、自ら学び考える力や課題を解決する力を高める ・SDGsをテーマとして、修学旅行や校外学習などの体験学習を中心とした教育活動を実施し、主体的に判断し課題を発見・解決する力を育成する ・人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を身に付けさせる
<b>目指す学校像(ビジョン)</b> ○生徒にとって、楽しく、行きがい(生きがい)のある学校 ○保護者にとって、親しみがあふれ、地域に誇りに思われる学校 ○教職員にとって、自己研鑽に励み、協力して前に進める学校	
<b>【目指す学校像】</b> ○和敬・・・明るく思いやりのある人―自他の生命を尊重する心の育成 ○思索・・・深く静かに考える人―思考力、判断力、表現力の育成 ○剛健・・・たくましく、がまん強い人―心身の健康、豊かなスポーツライフの育成	
<b>【目指す児童・生徒像】</b> ○常に生徒のことを第一に考える教師 ○日々研修に努め、チャレンジ精神をもって授業の改善、充実に取り組む教師 ○体罰や不適切な指導を許さぬ教師	

<b>前年度までの学校経営上の成果と課題</b> <b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の学校の様子や、給食の内容などの情報を学校ホームページによって発信することで、保護者や地域の方に今の学校の様子を伝えることができた。</li> <li>農園活動をはじめとした体験的な学習や様々な外部講師による出前授業等は、「生きて働く知識・技能」の涵養に向けた取組として効果をあげている。</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の興味・関心を引き出した基礎基本の定着等を図りやすいため、ICT機器の活用をはじめとした授業改善が必要である。</li> <li>特別な支援や配慮が必要な生徒が増えている傾向にあり、サポートルームや外部機関との連携や特別支援教育の充実が一層大切になる。</li> </ul>	
---	--

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		課題及び次年度以降の改善方策(案)		学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
		評価	取組指標	成果指標	
確かな学力の向上	ICT機器を活用して、理解の定着を図れるようにする。	3	3	ICT機器を活用して授業を進めている光景が多くみられるようになってきた。また、自分の考えを声に出して確かにいえる生徒にとっては頼れる身近な機能になっていると感じた。今後は提出物などをICT機器を通じてさらに行えるようにするなども、もっと積極的に活用ができればよいと思います。	ICT機器に関しては普段の授業でも様々な工夫を凝らして活用ができています。また、オンライン授業等でも有効に活用ができていますので、今後も積極的に活用を進めていく。
	授業のねらい・目標を明確にし、流れ、振り返りを視覚に訴えた授業を行う。	4	4	授業の主題や目標の提示がわかりやすくなっている。また、板書の活用やプリントの配布等も工夫していると感じる。学校全体でユニバーサルデザイン化を進めたことで、生徒も学習に取り組みやすくなったと思う。	ユニバーサルデザインを踏まえた授業等の展開については、今後も学校全体で進めていき、生徒が学習に取り組みやすいようにしていく。
豊かな心の育成	いじめ調査、学級環境適応感尺度(アセス)を実施し、生徒一人一人の実態を把握・分析して指導に活かす。	4	3	相談しやすい環境をよりよくしていこうとする姿勢が良いと思います。また、いじめについては悪い噂も聞かず、生徒のひびきと通っているように感じます。一方で、学年が上がることで否定的な回答の割合が増えていることが気になります。相談室の場所に関しては、目を気にして入りづらいという話を聞いたことがあるので、アクセス方法等で工夫ができればと思います。	否定的な回答をした生徒が一定数いるので、生徒が相談しやすいような環境を整える等、引き続き信頼関係の構築に努めていく。相談室の場所に関しては、空き教室等の問題もあり移動することは難しいが、誰でも入りやすいような環境を今後も形成していくようにする。
	学級活動や総合的な学習の時間、特別の教科道徳、生徒会活動(あいさつ運動、ボランティア活動等)を通し、公共心や社会性を育む。	4	3	昨年度に比べ肯定的な回答をした教員は91%→95%、生徒の回答では82%→85%とそれぞれ増加しており様々な活動を通して、公共心や社会性が育まれてきているので、さらに肯定的な活動を増やしていく。	ボランティア活動・あいさつ運動など、積極的に取り組んでいる生徒が多く好感もてます。また、登下校のあいさつもとても素晴らしいです。五中生はしっかりとあいさつ等ができていて、公共心や社会性を育てていると思います。今後も様々な活動を続けてもらいたいです。
健やかな体の育成	専門家による指導や講演などを実施し、生徒が体験的に学ぶ機会を設ける。	4	3	「俳句教室」「職業講話」「落語家の講演・体験」「能楽師の講演」等、今年度も専門家による体験的な活動の機会を多く設けることができた。3学期も「芸術鑑賞」や「車いすバスケットボール体験」等の活動を多く設定していく。一方で、生徒の回答で「体験的な活動は自分の成長に役立っている」という質問に対して、分からないと答えた割合が10%程度いたため、ただ体験を実施するだけでなく、意義等についても改めて説明をしていく。	専門家の方々による講演や体験の機会が多くなることは生徒にとって大変貴重で、良い経験や成長につながっていると思います。「自分の成長に役立っている」が分からないとの回答が10%程度ありますが、無意識のうち力となっていると思います。専門家のほかにも、身近な職業の方の講演や生徒にアンケートをとってみてもいいかなと思います。
	健康・安全に係る取組を生徒会活動などを通して実施し、生徒の主体性を育てる。	4	4	今年度も「薬物乱用防止教室」や「あいさつ運動」等、健康・安全に係る取組を生徒会役員や専門委員会等が主体となって行うことができた。その他にも、様々な行事や活動に生徒が主体的に取り組む意識が向上しており、今後も継続して生徒の主体性を育む取組を実施していく。	多くの生徒が主体的に取り組める活動がたくさんあることはとても良いと思います。健康・安全については今後もさらなる学習の取組が必要だと思うので、これらも様々な要素を取り入れていってほしいと思います。
特別支援教育の充実	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開(ねらい・流れ・振り返りの表示)の推進、教室環境の整備を充実する。	4	3	学校全体でユニバーサルデザインを踏まえた授業等の展開を意識して行うようにしており、すべての教員が「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の実施や教室環境の整備を推進する」という質問に肯定的な回答をすべて、全校で浸透できている。一方で保護者の「本校では、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行っている」という質問に対して、分からないと回答した割合が25%いるため、学校公開等を通してより多くの保護者に授業を参観してもらい様子を知ってもらおう。	ユニバーサルデザインを踏まえた授業についての保護者の方々の理解は、やはり実際に学校に足を運んでいただくことが大切だと思います。具体的なユニバーサルデザイン化の例を通知したり、公開授業の早期告知などを行う等も良いかなと思います。
	サポートルーム教員との連携を密にとり、支援を必要とする生徒の情報を全教職員で共有し、組織的に対応する。	4	4	昨年度に比べて、サポートルームの教員が五中で授業を行う日数が3日に増えたこともあり、教員や保護者と連携をとって対応することがより一層スムーズに行えるようになってきた。今後も、全教職員で情報共有をしっかりと行い、組織的に対応をしていく。	サポートルームの廊下の壁に工夫されたポスター等が貼っており、利用しやすいようでも工夫されていると思います。サポートルームの曜日が増えることで生徒の安定感も違ってくると思います。SSW等とも連携しながら引き続き対応をお願いします。
本校の特色	学校ホームページと一斉メールを有効に活用し、日々の教育活動を適時に的確に掲載・発信する。また、行事等においては必要に応じて動画の配信を行い情報の発信を進める。	4	4	毎日学校ホームページの更新を行い、教育活動の様子を発信することができた。保護者のアンケートでは「本校の学校ホームページの内容は適切である」という質問に対して89%が肯定的な回答だったが、わからないと回答した割合も7%程度あったため、再度地域や保護者の方々にホームページについて周知していく。	ホームページはとても見やすく、更新も毎日されており、学校の様子や生徒さんの生活の様子を知る上で、地域の人間にとってはとても大切な情報源になっています。保護者に配布された手紙や部活動の活動の様子等についてもページがあれば助かります。
	地域人材・資源活用推進事業校として、保護者を含めた、地域人材の有効活用を積極的に図る。	4	4	令和5年度の地域人材・資源活用推進事業校として、地域や保護者の方々と連携して、花を植えたり花の苗を地域に配布したりする「花のチカラプロジェクト」を行ってきた。来年度は清瀬第十小とも連携して取組を進めていく。	地域の方々との連携による「花のチカラプロジェクト」は生徒たちも楽しく活動できました。地域や保護者の方々ももっと有効な告知方法があれば、と思います。小とも連携することで、さらに保護者が関われるようになってほしいと思います。